

## 「高級日本酒」ますます好調 ～ 特定名称酒比率が初めて40%を超える

著・NPO 法人FBO 研究室

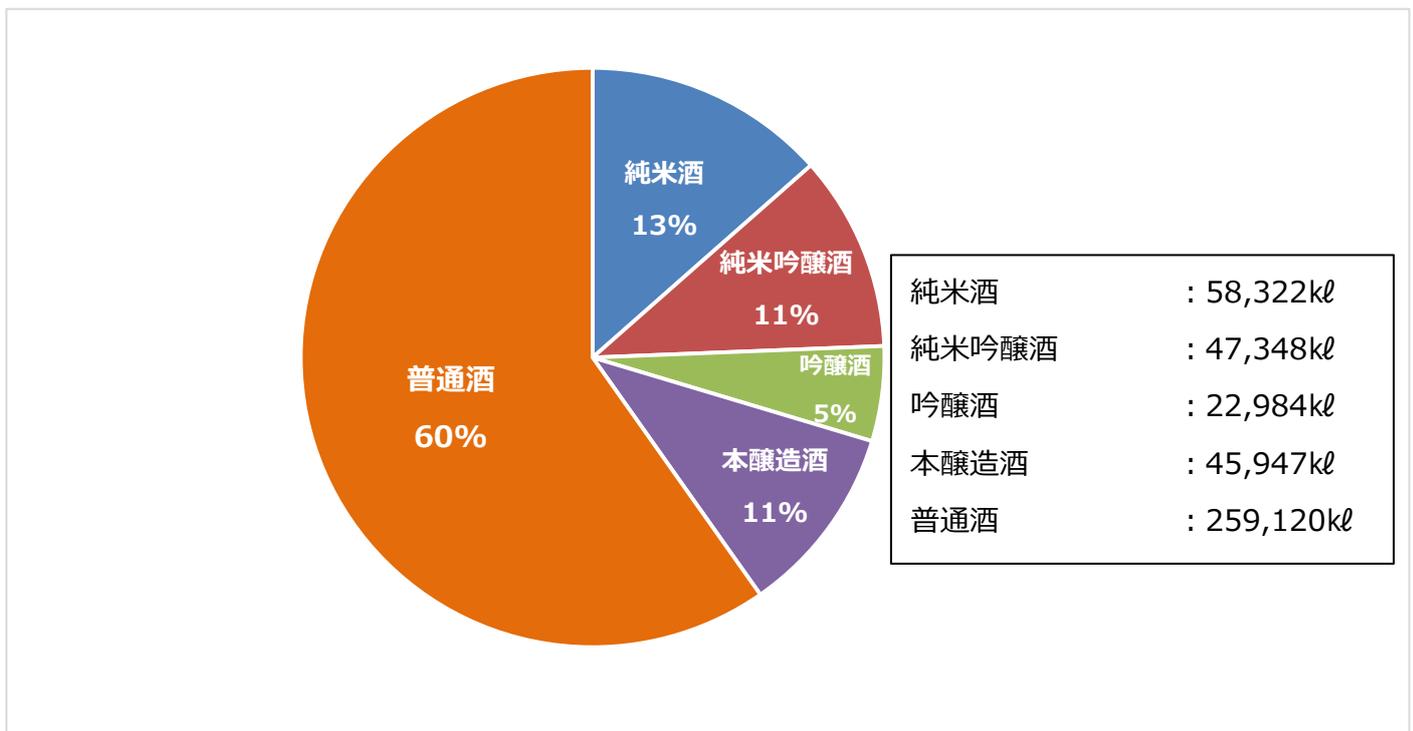
平成元年より始まった特定名称酒制度ですが、これまでずっと特定名称酒が約30%、普通酒約70%という割合で推移してきました。

しかし、近年の日本酒人気の高まりで（全体が微減しているとはいえ）、特定名称酒比率がじわじわと広がり、今回ついに40%を超えたと発表されたのです(図表)。

これはいわゆる「安い日本酒で酔いたい」という意向から、「グレードの高い日本酒を嗜みたい、又は楽しみたい」と考える消費者が増加したことが大きな理由と考えます。

日本酒を「到酔飲料」としてではなく「嗜好品」として捉えるユーザーとしては、インバウンドゲスト、女性層、若年層、さらにはワイン愛好家などが挙げられるでしょうが、これからは、これらの層を顧客化できるような洗練されたサービスやセールスを実行していくことが課題となるでしょう。

図表：日本酒の特定名称酒の割合[2016（平27）年度]



参考文献：『平成27酒造年度における清酒の製造状況等について』 国税庁鑑定企画官  
『酒販ニュース第1940号（2017.2.29）』 醸造産業新聞社

### 【注意】

- ・記事、データ等の著作権その他一切の権利はNPO 法人FBO に帰属します。
- ・記事・データ等の正確性については万全を期しておりますが、当該記事・データ等の利用により生じた不利益や問題等について当会は責任を負うものではありません。
- ・記事・データ等は予告なく変更する場合がありますのでご了承ください。